

広島平和の旅

わたしたちが広島で感じたこと

茅野市では、非核平和事業の一環として、市内の4中学校の2年生を対象に非核平和への想いを作文にしていた。最優秀賞に選ばれた8名を8月に広島へ派遣しています。

広島市で行われる「広島平和記念式典」への参列、平和記念資料館等の見学や被爆された方から直接お話を聞くなど、平和の大切さを学んでいます。

8名の中学生が広島平和の旅を通じて感じたことや平和への想いを「紹介」します。



これから出来る小さなこと

東部中学校 2年1組

中村 萌さん



私は8月5日から7日に平和の旅に参加しました。式典に出るだけでなく、色々なことを体験してきましたが、一番心に残ったことは「8・6証言の集い」の被爆者の方のお話です。戦争を体験していない私たちに出来ることはかぎられています。私が考える中で一番だと思ふことは「正しく伝える」ことです。間違つた伝え方や、情報だと世の中にもつとうそがあふれます。そうならないために正しい事実を、今を生きる私たちが伝えなければいけないと思います。

私は戦争が嫌です。今、北朝鮮との間で戦争がおころうとしています。また世の中が悲しみであふれようとしています。人を殺し合い、傷つけあい勝ち負けを決めたりするのが、人間の悪い所の一つなんじゃないかなと思います。

この三日間の旅を通して学べたことは、たくさんあります。今、日本は他の国に比べて平和です。でも悲しいおもいをしてる人はたくさんいます。そんな人が、減っていくようにみんなが平和にくらしたいける日本、世界になつたらいいなと思います。

広島平和の旅をおえて

東部中学校 2年2組

雨宮 可莉乃さん



今の広島のはとてもきれいで、活気もあり、たくさんの笑顔であふれていました。広島の中

心街には、まるで時が止まったように当時の姿のままの原爆ドームがありました。たくさんのもが原爆によって失われたなかで、私たちに強く語りかけるように残つた原爆ドームをずっと大切にしていきたいです。

二日目の平和記念式典では、8時15分、七十二年前に原爆の投下された時間と全く同じ時に「黙とう・平和の鐘」を行いました。せみの鳴き声と、風の音だけが響いている心に染みる時間でした。一分間という短い時間だったけれど、原爆で亡くなつてしまつた方に心から祈り、これからの平和について深く考えることができました。夜には灯籠流しがありました。私たちは世界をこえて平和にといい願いをこめて「宇宙平和と世界をこえて」と灯籠に書き、七十二年前に亡くなつた全ての方へ私たちの想いが届くよう、川に流しました。

今ある生活があたりまえの事ではなく、とても幸せな事だという事を今回の平和の旅を通して学ぶ事ができました。この幸せが世界中に広がってほしいと心から願っています。

死ぬまで終わらない戦争

長峰中学校 2年1組

守屋 耕平さん



今僕たちが住んでいる日本は平和です。僕たちの周りは、たくさんの笑顔であふれています。

しかしこの平和は、初めから日本にあつたものではありません。たくさんの方の苦勞がありました。たくさんの方の悲しみがあつた。たくさんの方の思いが時を経て、この平和へとつながつたのです。

一つの戦争でたくさんの方を失います。罪もないたくさんの方が殺されてしまっています。夢がある人、自分にとって大切な人、一つの戦争、一つの核爆弾が全てを奪います。生きたくても生きられない人がたくさんいます。そして核爆弾は一瞬にして全てを奪います。一度の原爆投下によって、ずっと苦しんでいるのです。

僕は、戦争を知らないくらい平和な世の中になつてほしいと思います。しかし、この戦争でたくさんの方が亡くなり、そして核兵器が使われた事実を忘れてはいけないと思ひました。そのため、今回広島に行き被爆者の方の話や資料館で見たことや聞いたことを後世に伝え、核兵器の恐ろしさ、平和の尊さ、何より今、自分が生きてる命の重みをたくさんの方に伝えていけるようになりたいです。

「過去の広島」・「今の広島」

長峰中学校 2年3組

青木 詩織さん



私は、この平和の旅に参加するにあたってある目標をかかげていました。それは、広島

去と今をしつかり受け止め、そこから自分の考えを持つ、という事です。「今の広島」をより強く感じたのは、平和記念式典です。特に、おどろいたのは、日本以外に世界の約八十ヶ国が参列していて、あちらこちらに外国人がいたということです。「過去の広島」は証言の集いと平和記念資料館見学によって知ることができました。特に証言の集いは、一人の被爆者からの視点の当時の状況、原爆・平和への思いを知ることが、それまであいまいだった自分の「過去の広島」を、より鮮明に思い描くことができました。

世界中で望む平和

永明中学校 2年2部

丹後 美優季さん



私は、広島平和の旅では何を

た事は「何を？」ではなく「全部」見て原爆のことを知らなければいけないことです。

広島平和記念式典に参加した後には、被爆した寺尾さんのお話を聞きました。自然災害は自然が起すもの、でも戦争は人が起しているものだから起ささないようにすることができると聞き、そのとおりだと思いました。死にたくなくても死んでしまった人がいるその上に、今生きていることには感謝しなければいけないと思います。

私は、広島平和の旅に参加できて良かったと思います。広島に行き、自分の目で原爆ドームや原爆の子の像を見て沢山いろいろな事を感じることができました。そして、どれだけ戦争というものはいけないことで今がどれだけ平和なのか分かりました。三日間では知ることができなかったところが沢山あると思います。友達や家族に自分が思ったことを伝え、今知っていること以上に知るべきことがまだあるというのを教えたと思います。

本当の思い

永明中学校 2年2部

白鳥 未来さん



「本当は思い出さたくないんだけどね。」

私がこの平和の旅で一番印象に残った言葉です。この言葉は、原爆の被爆者の方が、私達に原爆の現実を話してくださいました時に、何度も繰り返し言っていた言葉です。

そこには「戦争をもう繰り返してほしくない」という強い思いが込められています。そして、「亡くなった被爆者の方々が少しでも報われるように」ともつらくても話をしてくれているのだと思います。

今回の広島の旅で、私と同じ様に「平和な世界をつくりたい」と願っている人がたくさんいることがわかり、とてもうれしかったです。この願いをさらに広げるために、私たちにできることがあります。それは、被爆者の方々の思いを聞き、その思いに応えるべく、世界に発信していくことです。唯一の被爆国、日本に生まれたからこそつくりあげることが出来る「平和」があるはずですが、誰一人欠けることなく、被爆者の方々の思いに応えられる世界になってほしいと願います。

広島を歩いてみて

北部中学校 2年1部

飯森 直人さん



僕は、広島

に広島は発展し、ビルが並び、人でにぎわっていた。でも、被爆した方々の原爆への思いや、あの日、何があったのかを忘れる人はいないだろう。それだけ悲しかったことだし、辛かったことだから。でも、僕たちにもできることがある。それは、七十二年前のあの頃を再び繰り返さないために、「戦争の恐ろしさ」「平和の大切さ」「命の尊さ」を、現代の世の中に伝えるということです。

被爆者の方の話を聞いて、より強く感じたことがあった。「それは、戦争は二度としてはいけない。」ということ。前の世代の人たちが辛くても、苦しくても一生懸命今の世の中を築いてくれたのに、なぜ同じような過ちを犯さなければいけないのか。原爆ドームを見たとき、時が止まったように思えた。あの頃のまま唯一立っている建物には、こんなにも戦争の恐ろしさや平和の大切さを教えてくれる力があるんだと。見ただけで、絶対に戦争をしてはいけないという思いが強まった。だから、僕は未来に誓う。「平和な世の中を作る第一歩を歩むことを。」

広島が教えてくれたこと

北部中学校 2年3部

菊池 彩夏さん



広島で過ごした3日間。それは私にとつて、七十二年前の広島と七十二年

が経った現在の広島。その両方を肌で感じどこか不思議な感覚になる、そんな旅でした。

私が、今回の広島平和の旅を通して改めて思った事は「戦争」という悲惨な事をもう二度と繰り返してはいけない」と言うことです。終戦から長い年月が経過し、被爆者の高齢化が進み、戦争を伝え継いでいく人が少なくなってきた今、被爆した方の体験談を直接聞く事ができる機会も減ってきています。そのような中、私はお二人の方からお話を聞く事ができました。お二人の言葉の一つ一つに重みを感じ、心に突き刺さってくるような感覚を覚えました。

これから先、私達と同じような、戦争を知らない世代がますます増えていきます。今がこんなにも平和だからこそ、人々を思いやる心や人権を無視して、小さな争いが大きな争いへと発展していき、再びあのような悲惨な戦争を繰り返してしまいかもしれません。だからこそ、過去の真実を伝え継いでいく事こそが、未来を担う私達の課題だと私は思いました。